

# 妊娠・産褥期のメンタルヘルスとそのケア

鈴木 真

## Summary

妊婦のメンタルヘルスに関わることは子育て、虐待への影響があり喫緊の課題である。リスクの評価と見守りを行い、変化を適切に察知し、妊娠期から子育て期へ医療機関と行政が協働して切れ目ないケアを提供することが重要である。さらに産後うつについては2週間健診、1ヵ月健診で母児の関係を評価するとともにエジンバラ産後うつ病質問票などを用いたスクリーニングが有効である。

## Key words

妊婦  
産後うつ  
自殺

## はじめに

近年、妊娠・産褥期におけるメンタルヘルスが注目されている。その理由は①妊娠・産褥期はホルモン因子や社会的環境因子などによりメンタルの変調をきたしやすい、②メンタルヘルスに問題を抱えた妊婦・褥婦が増加しており臨床の現場で対応することが多い、③分娩に関わる医療機関に精神科、心療内科を専門とする医師がおらず連携が困難であることがある、④メンタルヘルスに問題をもつ対象は虐待ハイリスクである、といったことが挙げられる。妊娠・分娩・産褥期における女性はもちろん、さらに不妊治療を含めた妊娠前、さらに育児と女性のメンタルヘルスをケアすることはわれわれ産婦人科医・助産師をはじめ妊娠・分娩・産褥に関わるすべての医療提供者にとって大きな問題である。ここでは妊娠・産褥に焦点を当てて述べる。

## 妊娠・産褥期のメンタルヘルスケアの背景について

### 1. 精神疾患合併妊娠

わが国における精神疾患合併妊娠は近年2.5%前後で推移しており、人口あたり罹患率は諸外国に比して少ない。疾患の内訳はパニック障害・適応障害が35%と最も多く、次いで気分障害・躁うつ病などが32%、統合失調症・非定型精神病が18%である。一方で精神疾患合併に伴うリスクとして大阪府立母子医療センター(現 大阪母子医療

Makoto Suzuki  
亀田総合病院産婦人科部長